

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1020 NO38

校長 伊波喜一

あすなろの 木々に負けじと 生い育て 年輪刻む 一とせの節

『そして父になる』でカンヌ国際映画祭審査員賞を受賞した是枝裕和監督は、一年のスパンで映画を撮っています。季節を追うというより、季節の一巡りを撮影していくやり方です。いわゆる、楕円時間です。今年見た桜と一年後の桜は連続して咲いていますが、一年という歳月を経ているので、実際には同じ桜ではありません。桜に対するこちらの見方や思いも、一年前と今とでは当然違ってきます。吉野山の桜を愛でた西行は「願わくは 花の下にて 春死なん その如月の 望月のころ」と歌いました。吉野の桜は爛漫と咲き誇りますが、やはり去年と同じではありません。西行や是枝監督の作品の奥底には、この移ろいやすい四季の変化を感じ取る感覚が流れているように思えます。季節は冬支度を始めました。木々の葉が散り、尖った枝のシルエットが茶褐色に染まります。やがて、枝の分け目が薄桃色に色づき、芽吹きが始まります。目には見えねど、また春が巡ってきます。一年という時のスパンは忙しい生き方を振り返り、気づき直してしていくためにあるのかも知れません。